

背景と目的

世田谷区立玉川野毛町公園は、昭和31年に都立公園として開園し昭和40年に区へ移管されて以来、長年にわたり、みどりのオープンスペース及びレクリエーションの場として地域住民に親しまれてきた。このたび、隣接する国土交通省等々力宿舎跡地の一部（約2.8ヘクタール）を世田谷区立玉川野毛町公園拡張用地として整備する計画を進めている。公園整備の基本的な考え方や視点、進め方等を示した「世田谷区立玉川野毛町公園拡張事業の基本的な考え方について」（平成30年5月）を踏まえ、基本計画の策定にあたり骨子を取りまとめる。

「世田谷区立玉川野毛町公園拡張事業の基本的な考え方について」

【公園拡張のテーマ】

「世田谷の先人たちを育んだ 豊かなみどり、歴史文化を知り、育み、次世代へつなぐ場」

【公園拡張の基本的な考え方】

みどりとみずのネットワークづくり

- ・国分寺崖線のみどり、等々力溪谷の23区でも貴重で豊かな自然を活かし、生きものの拠点となり、都市生活における貴重な自然体験の場を提供する。
- ・草地から多様な樹林構造もったみどりを創出し、豊かな生態系を創出し、生きものネットワークの強化をする。

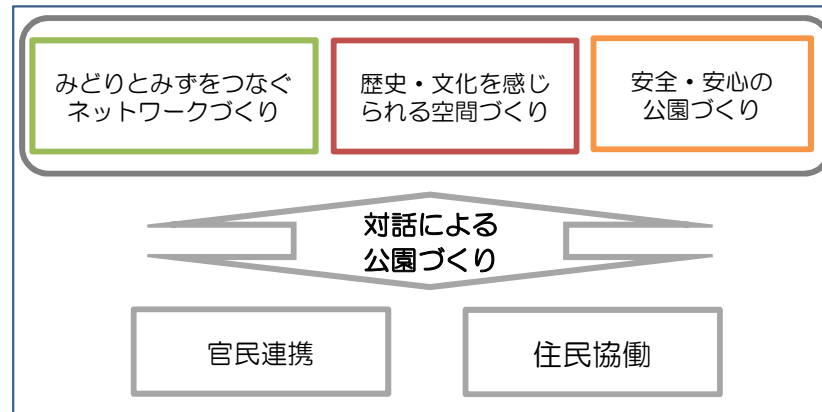
歴史・文化を感じられる空間づくり

- ・有史以来の世田谷の歴史を学び、次の時代に引き継ぎ、文化を育てる場をつくる。
- ・古墳等の文化財を通して、多摩川や国分寺崖線等の自然環境と歴史文化を守り伝える場をつくる。

安全・安心の公園づくり

- ・地域の動線を継承し、にぎわいの場をつくり、子どもからお年寄りまで、安心して訪れることができる楽しい場をつくる。
- ・地域の防災活動拠点、広域避難場所、緊急輸送道路（環状八号線）を踏まえた災害対応拠点をつくる。

公園拡張計画の進め方（イメージ）



基本計画（骨子案）

（仮）「世田谷の先人たちを育んだ豊かなみどり、歴史文化を知り、育み、次世代へつなぐ場」  
⇒世田谷のみどり（生物多様性の拠点）と歴史・文化の拠点

公園計画上の視点

拡張区域は、既存のみどり資源をいかし、多目的に利用できるオープンスペースとみどりをいかした場づくりを行う。

■みどりとみずのネットワークづくり

- ・みどりと歴史文化の拠点として、拠点となる施設とフィールドの整備検討を行う。
- ・受け継いだ既存の樹木をいかし、武蔵野のみどりをいかしたみどりの拠点を形成する。
- ・生物多様性に配慮した樹林地の育成や維持管理を住民参加で行い、みどりや生きものと触れ合える自然体験の場（フィールド）づくりを通じて生きもの拠点づくりを行う。

■歴史・文化を感じられる空間づくり

- ・「本物」の古墳に立ち、触れ、歴史を体感できる空間づくりを行う。
- ・野毛大塚古墳の今現在、見ることのできない遺構（周濠等）を意識した公園づくりを行う。

■安全・安心の公園づくり

- ・にぎわいや防災、日常利用と多目的に使用できるオープンスペースを確保する。
- ・防災倉庫の設置や地域の防災訓練を行う空間を確保する。
- ・災害時やイベント等の利用を想定し、大型車両の乗り入れが可能な施設整備を行う。
- ・住宅と接する公園境界部は、公園のみどりやオープンスペースをいかした空間づくりを行い、住環境の向上と安全安心な歩行空間を確保する。

既開園区域及び拡張区域の公園利用もしくは、公園滞在の質を向上するための便益施設等の整備検討を行う。

- ・等々力溪谷公園等の地域観光利用者の取り込みを想定した公園づくりを行う。
- ・既開園区域（第二種住居地域、第一種中高層住居地域）、拡張区域（第一種低層住居専用地域）の用途地域を踏まえた公園づくりを行うものとし、既開園区域と拡張区域とで機能分担を行う。
- ・建物施設の設置については、世田谷区公共施設等総合管理計画を踏まえ、既開園区域内の施設も含めた統廃合など、効率化を検討する。
- ・便益施設等の設置にあたっては、公園利用や地域性に配慮した施設の導入について官民連携を踏まえて検討する。

主なゾーニングと求められる公園機能

エントランスゾーン

既開園区域と一体感があり、新たな公園の顔として、気軽に立ち寄れる開かれたエントランスの整備  
【導入を検討する施設】駐車場、駐輪場、案内サイン、トイレ、便益施設等

拠点となる施設

世田谷区のみどり（生物多様性の拠点）と歴史・文化の拠点及び、公園利用や地域防災の拠点としての機能、現地の情報発信や普及啓発、体験や学習の場、住民協働等の活動に必要な機能を複合化した施設  
等々力溪谷公園等の地域観光利用者の取り込みも想定した休憩・休息の場や便益機能を有する施設  
【導入を検討する施設】ビジターセンター（案内、展示、学習、活動拠点等）機能、雨の日でも楽しめる施設、トイレ、便益施設、防災倉庫等

古墳広場ゾーン

エントランス、みどり、野毛大塚古墳との連続性や遺構（周濠等）をいかし、公園の中央に位置する多目的に使えるオープンスペースの整備  
【導入を検討する施設】芝生広場、緑陰、便益施設、多目的利用に対応したインフラ整備（水道、電気、wi-fi）等

みどりゾーン

世田谷区のみどり（生物多様性）の拠点とするため、既存の樹木と在来植生をいかした武蔵野の雑木林により「生きもの拠点」となるフィールドの整備  
【導入を検討する施設】既存樹木を活用した樹林、自然観察場、体験施設、休憩施設、便益施設等

公園と住宅地との敷地境界部

公園のみどりをいかしつつ、隣接する住宅のプライバシーに配慮した、安全・安心な公園境界部の整備  
【導入検討する施設】セットバック歩道、緩衝緑地、照明等

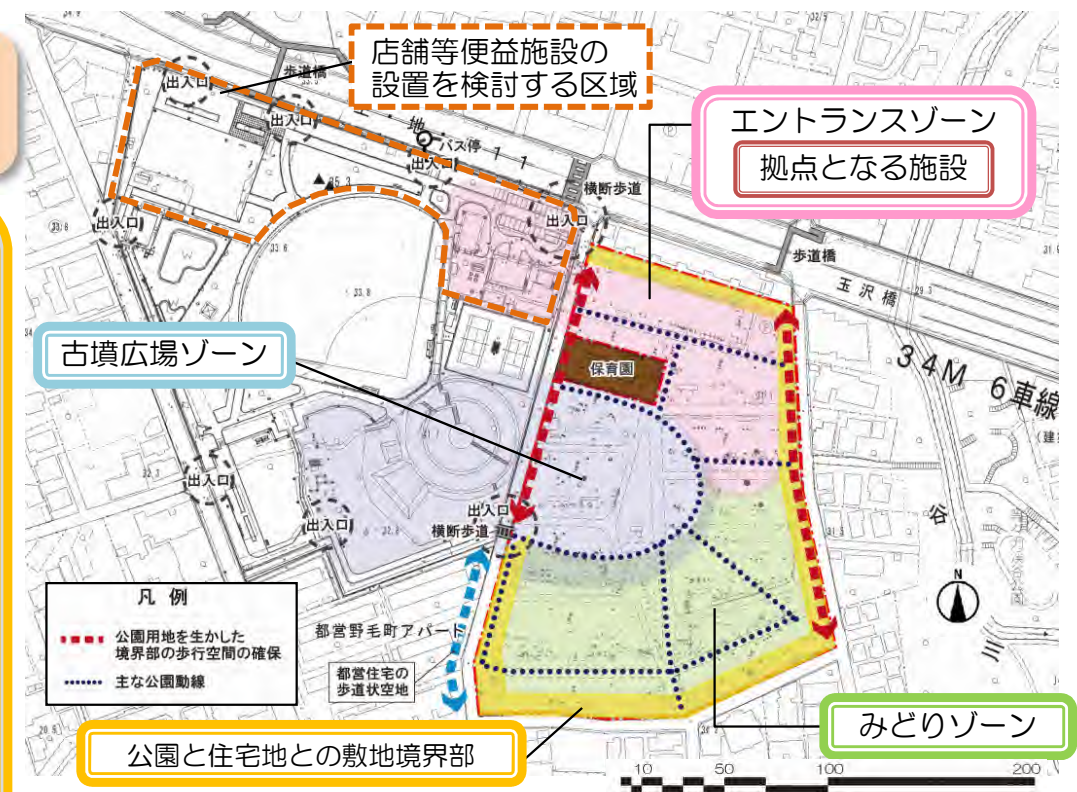
■拡張事業計画の対象範囲

玉川野毛町公園の既存開園区域、拡張区域、等々力溪谷公園を一つの拠点として捉え、計画を進める。



■拡張区域ゾーニングと動線

環状八号線による横断箇所の限定要因等を踏まえ、既開園区域の出入口や周辺道路、等々力溪谷公園等からのアクセスに配慮したゾーニングと動線計画を行う。



■スケジュール（予定）

	H30	H31	H32	H33~H34	H35
拡張区域	基本計画	基本計画 基本設計	実施設計	起工・工事	工事・開園
既開園区域	対話を踏まえ既開園区域の改修計画の検討・実施				
官民連携	対話と事業手法の検討		事業者の募集、選定、事業実現に向けた作業		

拡張計画の基本的な考えを踏まえ、公園利用者や住民、民間事業者と公園計画について対話(意向や事業提案等)を進め、住民意向を踏まえた民間活力の導入を検討し、公園サービスの向上を図る。